

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2470300720
法人名	有限会社 ホワイト介護
事業所名	グループホーム 箕田の北さんち
所在地 (電話番号)	鈴鹿市下箕田2丁目5番5号 (電話) 059-395-1177
評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 20 年 7 月 31 日(木)

【情報提供票より】 (H20年6月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 14 年 7 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 3人, 非常勤 8人, 常勤換算 5.6人	

(2)建物概要

建物構造	軽量鉄骨 造り
	2 階建ての 1 階 ~ 2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	55,000~70,000 円	その他の経費(月額)	22,000 円	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(500,000又は1,000,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,300円			

(4)利用者の概要(6月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名	
要介護1	1 名	要介護2	4 名			
要介護3	2 名	要介護4	名			
要介護5	2 名	要支援2	名			
年齢	平均	86.2 歳	最低	79 歳	最高	96 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	高木病院(総合) 鈴鹿厚生病院(精神) ホワイト歯科 留奥内科
---------	---------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「自己決定を促し支援する介護」を理念に介護度の上が行く利用者の思いや生き方を最大限に尊重した利用者本位の温かい介護が行われている。その糧として、職員の能力に応じたきめ細かい法人内研修がある。認知症の学識者である総合施設長による計画的な研修実施により職員の質の向上を図り、理念の実践へとつなげている。
事業所にはデイサービスが併設されており、グループホーム入居希望者が事前に利用する事で馴染みながら安心して入居に到れる場となっていると共に、外出が困難になった利用者の地域住民との接触の場となり、気分転換や楽しみに資されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>改善課題には真摯に取り組んでおり、市との連携強化には事業所発行の機関紙を持参し交流を図ったり、介護相談員の訪問時に意見交換を行ない連携を深めている。また、職員を育てる取り組みについては、今期から法人内研修を能力別にきめ細かく計画的(半期に22回予定)に実施する事で職員の質の向上を図っている。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員全員が個々に自己評価項目の評価を行い、その内容を集約して自己評価票にまとめられており、職員の意識の統一や、気づきに資されている。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>今期第1回を4月に開催し「地域住民や子供達との交流」について話し合われている。委員からは有意義な意見が出されており、「中学生の職場実習体験の受け入れ先として登録しては」との意見を具体化に向けて検討している。</p>
重点項目②	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>利用者の暮らしぶりや健康状態は、必要に応じ随時又は定期的(月1回)に報告をおこない、安心してもらっている。意見や苦情は家族会や家族訪問時に声掛をして意見の抽出を図っており、出された意見はその都度適切に対処している。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>利用者の散歩時の挨拶や祭りへの参加、公民館でのグループホームの啓発活動(説明会)等で交流を図っている。また運営推進会議でも「地域住民や子供達との交流」について話し合われており、有意義な意見が出されている。それを参考に事業所内で連携を深める話し合いを行っている。</p>
重点項目④	

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者が豊かな人間関係(利用者間・職員・家族・地域)を保ち支えあう暮らしの中で確固たる理念「自己決定に基づいた自立した暮らしを支援する」がつけられている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	利用者本位・自己決定を大切にしたい、一人ひとりに向き合った支援が実践されている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者の散歩時の挨拶や祭りへの参加、公民館でのグループホームの啓発活動(説明会)等で交流を図っている。運営推進会議でも「地域住民や子供連との交流」を議題に話し合いが持たれており、各メンバーからの意見を参考に事業所内で地域交流を深める話し合いが行われている。	○	運営推進会議での有意義な意見を具体化すると共に、より身近な自治会や老人会との交流を深められる事を期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員全員が個々に評価を行い、その内容を集約し評価票にまとめられており、職員の意識の統一や気付きに資されている。また、外部評価の結果は真摯に討議され順次改善されている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今期第1回が4月に開催され、「地域との交流」について話し合いが持たれており、有意義な意見を具体化するため事業所として討議・検討されている。運営推進会議は3ヶ月に1回開催予定としているが、次回は8月開催を目指している。	○	委員の都合等で開催実施に苦慮しているが、堅苦しく考えず出席出来る委員や新メンバーを加え臨機応変に開催して行く事で、広く事業所の理解と支援を得る機会となるものである。今後は2ヶ月に一回程度の定期的な会議開催を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護相談員の月1回の訪問受け入れや事業所の機関紙を定期的に持参する等により、交流・連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりは「北さんちたより」に一人ひとりの現状を追記し定期的に報告されている。健康状態等緊急を要する事柄はその都度、施設長が家族と連絡を取り報告している。また、金銭報告は預り金を個人別出納簿で管理し、納金時に確認を受けている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会開催時(年2回)や家族訪問時に声掛けをして意見の抽出を図っている。また事業所玄関には「ご意見箱」が設置され、重要事項説明書に事業所内外の相談窓口が明記されている。出された意見はその都度、適切に対処されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	常勤職員の異動は最小限(開設6年で3名)に止まっており、非常勤職員の異動時には、利用者の動揺を防ぐため他の職員の心配りを厚くし、安定した利用者対応を図っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修が能力別に計画的に充実した内容で開催されており、職員の質の向上を図っている。外部研修にも希望者が参加しやすい様に適切な情報提供が行われている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣同業者11事業所で年1回利用者作品展を開催したり、グループホーム連絡協議会での研修・交流を通じ、共に質の向上を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	併設デイサービスの利用や体験入所を通じ、安心した納得のいく利用につなげている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者の戦争中や子育て時の話を聞いたり、一緒に家事を行う中で教えられること、気付かされる事も多く、共に支えあう関係を実感する日々を送っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	事業所の理念「利用者本位・自己決定の支援」には、思いや意向の把握は欠かせない事と職員は理解しており、利用者の行動や表情で察知すると共に1対1の穏やかな対話で時々の思いや希望の把握を図っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	一人ひとりのアセスメントを基に担当職員と計画作成担当者が原案を作り、ケア会議で全職員で検討し作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	三ヶ月に一回、「施設介護経過記録」を基に、ケア会議で課題や現状を検討し介護計画の定期見直しを行っている。また、様態に変化が生じた場合はその都度適切な介護計画の見直しが行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	指定認知症対応型通所介護の指定を受けている。また、通院支援や帰宅送迎支援等、家族の要望に応えた柔軟な支援が行われている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医(留奥内科)には月一回の定期往診や医療アドバイスを随時受けている。しかし、かかりつけ医を限定する事無く、本人・家族の希望に副った医療機関受診への支援も適切に行われている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人・家族の希望と医師の判断の許す限り、終末期までの介護を基本としている。協力医療機関とは終末期対応往診も話し合われており、マニュアルも作成されている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は目立たない、さり気ない介助を日々心掛けており、プライバシー確保・尊厳重視の介護が徹底されている。各種記録等の個人情報も事務室に適切に保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの生活パターンを大切に、思いや意向にそった支援が行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買出しや下ごしらえ、配膳、片付け等、やれる事をやれる利用者が楽しみながら行っている。食事は全介助や見守りを必要とする利用者も多く、共に食べる事は不可能となっているが、声掛けや会話を楽しみながら穏やかな食事風景が見られた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	デイサービスの広いお風呂やグループホームの浴室が毎日午後準備されており、利用者の希望に添って様態に合わせた介助での入浴を楽しんでもらっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は利用者の得意分野や能力をよく把握しており、それを日々の生活(掃除、食事準備・片付け、洗濯たみ等)の中で楽しく発揮してもらうよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩に出かけコーヒーを飲んで帰ったり、外食や買い物、季節を感じる遠出(花見)等、外出の機会を多くするよう配慮している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室は利用者の希望で自ら施錠する人はいるが、事業所としては居室や日中の玄関への施錠は行っていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の防災訓練(内1回消防署協力)が行われており、避難マニュアルも整備されている。	○	日中の防災訓練は行っているが、夜間を想定した訓練も必要だと思われる。また、災害(津波・火災)対策として近隣住民の協力体制の構築も急務だと感じる。災害時の備蓄もしておかれる事を期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	給食業者を利用していた時の管理栄養士の作った献立を参考に、バランスの良い食事が提供されている。個々の利用者の摂取量は主食・副食・水分と毎食「摂取量記録簿」に記録されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	高齢者に配慮の行き届いたバリアフリーの建物で、玄関や暖炉のある吹き抜けの落ち着いた食堂、廊下には所々に季節の花や手作り作品が飾られ、清潔で居心地良く過ごせる共用空間が作られている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各自室には、ベッドやテレビ等が持ち込まれ、家族の写真や手作り作品が飾られて好みの居室づくりが成されている。		